

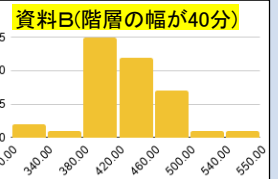
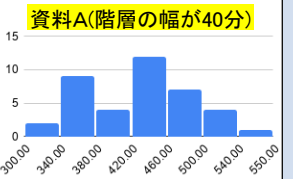
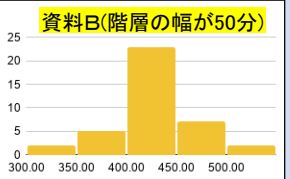
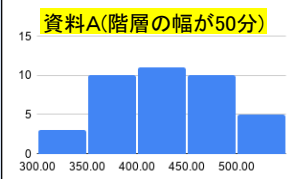
主体的・対話的で深い学びのポイント

ICTを活用して自らの考えをまとめるとともに、学級全体で説明し伝え合うことで、自分の考えを広げ深める対話的な学びの実現を目指す。

ICT活用のポイント

ICTを活用することで、早く簡単にアンケート結果の集計やヒストグラムを作成することができる。また、同じデータでも違う見え方をするグラフに簡単に変えることができ、目的に応じた適切なグラフに表すことができる。

使用するICT機器	P C、タブレット等	使用するアプリ・クラウドサービス等	表計算ソフト Googleドライブ
クラウドの活用	☒ 教材の配布・回収等 ☐ 生徒の学習状況の把握	☒ 資料等の共有 ☐ その他（ ）	

本時のねらい	代表値やヒストグラムなどを用いて資料を考察し、傾向を捉え説明することができる。																																																																																										
	主な学習活動 (学習場面)	I C Tの活用・留意点等	評価																																																																																								
導入	○課題を確認する 一斉	代表値やヒストグラムなどを用いて、二つの資料を比べ、共通点や相違点を説明する。 <table><tr><td colspan="4">資料A</td><td colspan="4">資料B</td></tr><tr><td>420</td><td>310</td><td>420</td><td>540</td><td>420</td><td>330</td><td>410</td><td>510</td></tr><tr><td>430</td><td>430</td><td>400</td><td>510</td><td>410</td><td>400</td><td>430</td><td>440</td></tr><tr><td>420</td><td>450</td><td>370</td><td>460</td><td>400</td><td>390</td><td>430</td><td>410</td></tr><tr><td>470</td><td>370</td><td>400</td><td>420</td><td>390</td><td>420</td><td>460</td><td>420</td></tr><tr><td>490</td><td>350</td><td>480</td><td>360</td><td>410</td><td>390</td><td>420</td><td>480</td></tr><tr><td>360</td><td>470</td><td>470</td><td>370</td><td>300</td><td>400</td><td>540</td><td>480</td></tr><tr><td>500</td><td>340</td><td>420</td><td>450</td><td>380</td><td>420</td><td>470</td><td>420</td></tr><tr><td>420</td><td>500</td><td>360</td><td>480</td><td>400</td><td>370</td><td>470</td><td>460</td></tr><tr><td>380</td><td>420</td><td>350</td><td>450</td><td>410</td><td>420</td><td>460</td><td>400</td></tr><tr><td>510</td><td>380</td><td>300</td><td>(分)</td><td>420</td><td>410</td><td>420</td><td>(分)</td></tr></table> お正月のある日の睡眠時間 冬休み明けの始業日の睡眠時間	資料A				資料B				420	310	420	540	420	330	410	510	430	430	400	510	410	400	430	440	420	450	370	460	400	390	430	410	470	370	400	420	390	420	460	420	490	350	480	360	410	390	420	480	360	470	470	370	300	400	540	480	500	340	420	450	380	420	470	420	420	500	360	480	400	370	470	460	380	420	350	450	410	420	460	400	510	380	300	(分)	420	410	420	(分)	
	資料A				資料B																																																																																						
420	310	420	540	420	330	410	510																																																																																				
430	430	400	510	410	400	430	440																																																																																				
420	450	370	460	400	390	430	410																																																																																				
470	370	400	420	390	420	460	420																																																																																				
490	350	480	360	410	390	420	480																																																																																				
360	470	470	370	300	400	540	480																																																																																				
500	340	420	450	380	420	470	420																																																																																				
420	500	360	480	400	370	470	460																																																																																				
380	420	350	450	410	420	460	400																																																																																				
510	380	300	(分)	420	410	420	(分)																																																																																				
	○問題を解決するための見通しをもつ	「中央値や平均値で考えよう」 「ヒストグラムは階級の幅をどのようにとればよいのだろうか」																																																																																									
展開	○資料を整理しその結果を考察する 個別	各自がGoogleドライブから資料A・Bをダウンロードし、表計算ソフトで中央値や平均値を求めたり、階級の幅の異なるヒストグラムを作成したりするなどして、考察する。  クラウド ICT機器 指針2																																																																																									
	 ○分析・考察したことを説明する 指針3 協働	「中央値、平均値は同じだし、階級の幅が50分のヒストグラムでも全体的な傾向は同じように見えるよ」 「階級の幅が40分のヒストグラムをみると、資料Aは二つの山なのに、資料Bは一つの山のままだよ」 ここで評価 【思】代表値やヒストグラムを用いて、資料の傾向を捉え説明している。																																																																																									
終末	○成果をレポートにまとめる 個別	タブレットでレポートをまとめ、Googleドライブに提出する。 提出状況を確認する。 指針2	ICT機器 クラウド																																																																																								

※ 表内の指針1～6は、「ICT活用授業指針」8ページにあるICT活用授業の目指す姿1～6を表しています。
※ ICTの導入が目的化しないように、ICTを活用する場面と活用しない場面を効果的に組み合わせることが重要です。
※ 評価の観点 【知】＝知識・技能 【思】＝思考・判断・表現 【態】＝主体的に学習に取り組む態度